平成 22 年度　海外研修派遣　報告書

国立がん研究センター中央病院　　曽根原純子

私が本研修に応募した理由として，第一に挙げられるのは，最先端の医療･研究を直接見ることのできるまたとない機会であると感じたからである．実際に，High Field MRI, Molecular Imaging はじめ現在行われている研究や，今後臨床に登場してくるであろう新技術，そして放射線医学の未来への展望等，多岐にわたる内容を著名な研究者たちが自身の考えも踏まえながら講義してくださり，この点については期待を大きく上回る結果であった．なかでも，自分としては MR-PET と Hyper Polarized MRI の今後に興味を持った．これらの技術が実際に全身で使用できるようになれば，患者にもたらされる恩恵は非常に大きいと思う．乗り越えなければならない壁はまだまだ高いように感じたが，いつか臨床に登場し自分もこのような検査に従事する日が来るかもしれないと思うと，非常に楽しみである．

今回見学する機会を得たスタンフォード大学の関連病院や施設は，どの建物もアメニティに配慮されており，スタンフォード大学だからこそなせる事なのかもしれないが，訪れる人の心を和ませる細やかな気配りが随所に感じられたのが印象的であった．また，米国の技師制度で感じたことであるが，モダリティ毎の免許制は，各自の専門性を高め，専門であるが故の責任も生まれ，仕事のやりがいにもつながる気がした．日本では自分のやりたいモダリティに配属されるとは限らないからだ．しかし，様々な業務をこなす上にそれぞれ専門の道を究めようとしているこのたびの研修生諸先輩方をみると，自分も見習いたいと強く感じた．

この研修で最も印象に残ったことは，先生方のパワフルでユーモアあふれる講義である．我々の興味を常に掻き立てる授業を展開してくださった．特に Moseley,PhD の講義は，常に工夫が凝らされており，日本人の我々より詳しいくらいに日本の事をよくリサーチして，授業に反映していて，その熱意に大変感動した．また，全国から集まった向学心あふれる研修生の方々と交流を持てたことは，この研修で得た大きな成果の一つである．この交流がこの先も続くことを切に願う．

放射線医学の将来は，化学，ナノテクノロジー，Molecular Imaging にかかっているようだ，との言葉が心に残った．自分の今後の方向性について考えるとき，この研修で学んだことは大きな糧となったことは間違いないと思う．周囲にもこの研修を啓蒙していきたい．

最後になりましたが，この研修のためにご尽力いただいた日本放射線技術学会，スタンフォード大学，GEHC-J 関係者の皆様，引率してくださった九州大学病院西川様に深く感謝申し上げます．また，快く送りだしてくださった国立がん研究センター中央病院の皆様に感謝いたします．

TEAM AKEBONO